

風土と生活の産物・民家

1994年2月5日[土]—5月15日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

()内は20名以上の団体料金

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL03-5450-9581

描かれた民家 その風土

《山家雪意(宮城県横川)》1961年





《妙高高原》制作年代不詳



《マツギの村》1963年

昭和20年以來、向井潤吉は日本の各地を旅して、それぞれの地方に見られる特色豊かな民家を取材し、とりわけ農村部を中心とした民家作品を描き続けてきました。しかしこの時期、急速な経済成長に比例するように多くの地方では過疎化が進み、同時に日本人の生活様式が多角的に変容するに従って、昔ながらの民家は、多くの場面において合理性を失い、目を追うごとにその数を減らしてきました。向井潤吉の民家を求めての果てない旅は、あたかも、消え去っていく幻影との追いかっけこのようにも見えます。

しかし今日、向井潤吉のこうした画業をかえりみれば、それぞれの作品は民家という消え行く建築の貴重な記録となっており、今日の画壇において、きわめて特異な、そして独創的な画業になり得ていると言えます。

向井潤吉の民家作品では、民家の形状が表現されるにとどまらず、周辺の自然景観、人々の生活などにも深い関心が寄せられ、それぞれの土地の地理的条件や気候、社会形態などによって、民家が多様な用途や役割を担っていたことが表現されています。

本展では、その民家の造形についての理解を深めるために、彼の描いた民家作品を地理的条件や気候、あるいは地場産業などの視点から検証し、その構造や機能についての理解を深めようとするものです。

なお、本展では昭和34年に渡欧した際に描いた、ヨーロッパの街並みをスケッチした作品もあわせて展示し、向井潤吉の海外における“民家のある風景”をご紹介します。



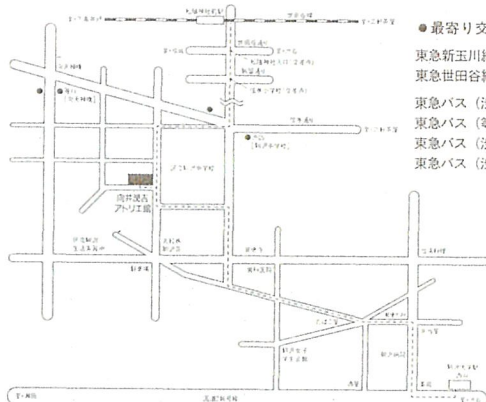
《風と砂の村(青森県北津軽郡市浦村十三)》1964年



《丹波下山の部落(京都府船井郡丹波町下山)》1969年



《ヨーロッパ風景(シャントルの小川)》1960年



●最寄り交通機関のご案内

- 東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分
- 東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分
- 東急バス (渋05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分
- 東急バス (等11) 祖師谷大蔵～等々力 【向天神橋】 停留所下車/徒歩6分
- 東急バス (渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分
- 東急バス (渋13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581